

**★個人防護具(PPE)の種類★**  
 ①手袋:手を守る  
 ②マスク:鼻を守る  
 ③ガウン/エプロン:皮膚や衣服を守る

**★個人防護具(PPE)使用にあたっての重要な原則★**  
 ①必要性を判断したうえで、どのPPEを使用するか選択する  
 ②PPEは正しい方法で着用する ③PPEを外す際は外す順番とその方法を正しく行い、衣服と手の表面などの皮膚の汚染を防ぐ  
 ④PPEは患者の部屋等、区切られた区域から出る前に脱ぎ、周囲を汚染しないように廃棄する  
 ⑤汚染されたPPEは、一処置、患者ごとに必ず交換する ⑥PPEを脱ぎ、処分した後は必ず手指衛生を行う

標準予防策		手袋	マスク	エプロン/ガウン	ゴーグル
		下記の行為を実施する場合は、感染症の有無に関わらず、全ての患者に使用する。 ●血液・体液・排泄物・傷のある皮膚・粘膜に触れるとき ●汚染物や使用後の物品に触れるとき  <b>未滅菌手袋(単回使用)</b> ●採血時 ●排泄物、体液の取り扱い時 ●失禁患者の身体の清潔時 ●採尿バッグの取り扱い時 ●汚染された器材の取り扱い時  <b>ゴム手袋(再使用可能)</b> ●器具洗浄時	血液・体液・排泄物が飛散する可能性があるときは必ず着用する(サージカルマスク)  	血液、体液、分泌物、排泄物により、衣服が汚染する可能性があるときは着用する ●血液・体液の着衣への浸透を防護するためには、撥水性あるいは防水性のガウンを使用する  	血液・体液・排泄物が、目・鼻・口に飛散する可能性がある時は着用する  <b>ゴーグル</b> ●目の防御が必要な時使用  <b>フェイスガード付マスク</b> ●目や顔・口・鼻の防御が必要とき使用  
感染経路別予防策	接触感染	<b>対象疾患</b> MRSA、多剤耐性緑膿菌、偽膜性腸炎、RSウイルス、ウイルス性結膜炎など 患者が隔離されている場合は環境や患者に触れる行為が伴うときは必ず着用する	標準予防策に準ずる	患者やその周辺環境に接触する可能性のあるときは必ず着用する	標準予防策に準ずる
	飛沫感染	インフルエンザ、風疹、ムンプス、百日咳、マイコプラズマなど 標準予防策に準ずる	患者に接する際は、必ずサージカルマスクを着用する	標準予防策に準ずる	標準予防策に準ずる
	空気感染	肺結核(気道より結核菌が排出されている場合)、麻疹、水痘 標準予防策に準ずる	患者の部屋へ入室する際は、濾過マスク(N95)を着用する	標準予防策に準ずる	標準予防策に準ずる
注意事項		・手袋着用中は、発汗が微生物の増殖を促すため適宜交換する。また、ピンホールを考慮し、手袋を外した後は必ず手洗いを ・手袋の交換は患者ごと、ケア・処置ごとに行う ・ケア時は、「清潔部から不潔部へ」の原則を順守する ・手袋をしたまま、顔やメガネ、オーバーテーブル等の環境に触れない ・ケア、処置等が終了した際はすみやかに手袋をはずす ・湿性体液に触れた場合や、その可能性があった場合は、そのつど交換する ・手袋の着用は、ケア・処置等の必要時に行う(手袋着用は、手洗いの代用とはならない。) ・手袋をはずす際は、汚染部位に触れないように注意し、内側が表になるようにはずして廃棄する ・手袋をはずした後は、手指衛生を行う	・口と鼻はしっかり覆う ・手や腕の周りにかけたままにしない ・サージカルマスクは湿ったり、汚れたら交換する ・マスクをはずす際は、マスク面に触れず、ひも部分のみで取り扱う ・N95マスク着用時はシールチェックを行う。濡れた時や汚れた時は交換する	・汚染されたときはただちに交換する ・使用後のガウンは、汚染された表面を素手で触れないように注意しながら脱ぎ、ただちに手を洗う	・ゴーグルは洗浄剤と流水で汚れをとり、乾燥させる ・フェイスガード付きマスクはそのつど廃棄する

参考文献: 1)院内感染対策パーフェクトマニュアル:藤田次郎監修, 学習研究社, 2008  
 2)INFECTION CONTROL 2009年春季増刊『感染対策完全図解マニュアル』:インフェクションコントロール編集室編集, メディカ出版, 2009